

親子で考えるいじめの問題



▲さまざまな意見が発表されました



▲田中教育長から受賞者に表彰状が手渡されました

「いじめ」の防止は、学校と児童生徒の意識の向上や取り組みだけでなく、保護者の意識の向上や家庭教育におけるさまざまな視点が必要となつてきています。

亀岡市教育委員会は、市内の児童生徒と保護者がいじめ防止に対する意識を高める機会として、11月4日ガレリアかめおかで「平成29年度亀岡市小・中・義務教育学校いじめ防止フォーラム」を開催しました。

会場では「親子で考えるいじめ防止標語」の入賞者への表彰式を行うとともに、佛教大学の原清治教授に「親子で考えるいじめの問題」子どもたちの実態をまじえて」と題し、事例やデータを交えながらお話をいただきました。講演の中では大人、子どもを問わずさまざまな意見が発表され、親子で新たな気付きや理解を深める1日となりました。

「親子で考えるいじめ防止標語」入賞作品

●小学校・義務教育学校前期課程の部

- 最優秀賞 「うれしいことも いやなことも 親子で話す 心がけ」
亀岡川東学園3年 平井 凜奈さん
- 優秀賞 「『それいじめ』 気づく心と 言える勇氣」
東別院小学校5年 三浦 奏里さん
- 優秀賞 「いじめない ほくがされたら いやだもん」
西別院小学校1年 小栗栖 樟汰くん
- 佳作 「つみとろう きみの心の いじめの芽」
詳徳小学校6年 氷上 大くん
- 佳作 「その人が いやだと思えば もういじめ」
大井小学校6年 中川 莉々子さん
- 佳作 「その言葉 そのたいど だれかのえがおをうばっていませんか」
つつじヶ丘小学校4年 丸山 真帆路さん
- 佳作 「ごめんねとありがとうは なかよくなる まほうのことば」
安詳小学校1年 新井 颯太くん

●中学校・義務教育学校後期課程の部

- 最優秀賞 「『これくらい』 それがいじめの 始まりだ」
南桑中学校2年 野村 快生くん
- 優秀賞 「悪口は 本当の友達 つくらない」
東輝中学校3年 中井 瑠奈さん
- 優秀賞 「『やめようよ』 勇氣を持って この一言を」
別院中学校1年 山田 和さん
- 佳作 「相手の立場になっても あなたは笑顔でいられますか」
育親中学校3年 畑 美咲さん
- 佳作 「笑顔であいさつ いじめにバイバイ」
亀岡中学校1年 關口 明日香さん



頂を目指して

安田 京介選手 (京都産業大学4年)

安田 開選手 (日本体育大学3年)

亀岡には、自転車競技に魅せられた2人の大学生兄弟がいます。父の影響で小学校時代からロードバイクに乗り始めた兄の京介さんと、そんな兄の姿を見て自転車競技に興味を持った弟の開さんは、2人とも高校時代に本格的に自転車競技を始められました。その後マディソンや追い抜きなどで学生選手権やインターハイで優勝するなど、それぞれめざましい活躍を見せておられます。

今後に向けて、京介選手は「卒業後、社会人としても競技を続け、全日本選手権で勝つことが今



▲京介選手(左)と開選手(右)

遊・You・かめおか ~12月のイベント情報~

第3回京都亀岡ハーフマラソン大会

12月10日(日)
開始式 午前9時15分～
スタート 午前9時45分～

約4,000人のランナーが自然豊かな“京の奥座敷”を駆け抜けます。競技場向かいの「にぎわい会場」では、地元特産品の販売や飲食ブースなども出店します。

ゲストランナー
谷川 真理さん
マラソンランナー
スポーツコメンター

ゲストスターター
秋本 治さん
漫画家
「ファインダー-京都女学院物語」
「こちら葛飾区亀有公園前派出所」



ゲストランナーは1991年東京国際女子マラソン優勝、スポーツコメンターとして活躍中の谷川真理さん。

またゲストスターターは、亀岡を舞台に女子高校生の日常を描く漫画「ファインダー-京都女学院物語」(週刊ヤングジャンプ不定期連載、集英社刊)の作者・秋本治さん。にぎわい会場では、作中に登場した亀岡の名所を紹介する展示ブースも出店します。

秋本さんと一緒にランナーの皆さんを応援しましょう!

当日は、午前9時から午後0時35分まで交通規制を行いますので、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



●と ころ 亀岡運動公園競技場(スタート&フィニッシュ)
●問 い 合 わ せ 京都亀岡ハーフマラソン大会実行委員会事務局(亀岡市体育協会内)
☎21-1848

最前線 8

セーフスクール認証保育園
亀岡あゆみ保育園
園長 井内 邦典さん

亀岡あゆみ保育園では、平成25年からセーフスクールに取り組み、平成27年に国際認証を取得しました。安全な保育所づくりのために施設整備をしっかりと進める中で、それぞれの保育士もできることから楽しんで取り組むことで、負担なく継続することができています。

セーフスクールに取り組んで良かった点が二つあります。

一つは、今まで体感しているだけであった「安全」を数値で表すことができたことです。データを分析することで、課題が明確になり、対策を絞って実施できるようになりました。また実際に大きくケガが減少し、職員モチベーションにもつながっています。

二つは、職員が自主的に行動できるようになったことです。セーフスクールの仕組みは「課題を考え、対策を実施し、評価・改善する」というものです。その中で職員の「自分で考え、行動する力」が身に付きました。現在は、ケガの原因を園児の担任同士で考えるチームワークも育っています。

保育園で最も大切なことは「子どもを安全に預かり、安全に家に帰すこと」だと考えています。セーフスクールに取り組むことで、大きなケガを減らし、子どもが安全に安心して遊べる環境を作ることができると、今後も亀岡あゆみ保育園の文化として、セーフスクールに取り組んでいきます。

広報クイズ

はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙「キラリ☆亀岡」の感想を書いて、〒621-8501(住所不要)市秘書広報課へ。

正解者の中から抽選で5人に図書カードを差し上げます。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【前月の答え】『みのり』でした。たくさんのおはがき、ありがとうございました。

ヒントは、広報紙の中にあります。
締切日 平成29年
12月28日(木) (必着)

ハイ! 広報広聴係です

今年も残すところあと1カ月となりました。あらためて、この1年を振り返ってみると、今年も市内の各地に出向き、さまざまなイベントや行事を取材し、たくさんの方の話を学びました。

今号で、私は6面に取り上げた「いじめ防止フォーラム」を取材しました。取材を通じて、優しさと思いやりの心を持って人と接することが人権を守ることにつながるということが、また良い悪いではなく多様な価値観や自分と異なる考え方を認めていくことの大切さを、あらためて学びました。

来年も、皆さんにさまざまな記事を紹介できるようにすることともに、取材を通じて多くのことを学びたいと思っています。

(井尻)

